

世界社会学会議 横浜大会ニュース No. 4

2013/1/10

2014年7月13日～19日開催の世界社会学会議横浜大会まで、約1年半となりました。このニュースレターでは、2012年に引き続き皆様に横浜大会に関する情報をお届けいたします。どうぞよろしくお願いたします。

(お問合せのメールは次のアドレス宛お願いたします。 wcs2014loc@gmail.com)。

1、2014年の世界社会学会議横浜大会では、日本の組織委員会企画の Thematic Sessions が毎日1 session ずつ開催されます(月～金、14時～15時20分)。次の5つが国際社会学会のプログラム委員会で承認されたテーマです。日本社会が直面する社会問題や日本の社会学の最近の研究動向などをふまえたものです。組織委員会では、報告希望者やアイデアを募集しています。締切は1月31日(木)です。至急ご連絡ください。

1. Natural/Human disasters and the recovery of local society
2. Low fertility, rapidly aging society and changing gender relations
3. Civil society issues: CSOs, NGOs, social movements
4. Globalization, migration and multi-ethnicity in Asia
5. New Cultural Waves from Asia

2、世界社会学会議では、日本社会学会大会のような「自由報告部会」形式ではなく、各リサーチ・コミッティ(RC)が session のテーマ、司会者等をあらかじめ明示して報告を募集します。現在各 RC ごとに session の企画を募集中です。締切は各 RC ごとに異なります。<http://www.isa-sociology.org/congress2014/rc/>で確認してください。企画上の注意点は<http://www.isa-sociology.org/congress2014/guidelines-program-coordinators-and-session-organizers.htm>を参照ください。

3、世界社会学会議組織委員会は、国際社会学会(ISA)のリサーチ・コミッティ(RC)で活動されている方々のうち、アドバイザーとして対応して下さる方々のリストを作成しました。「この RC では具体的にどんな活動をしているのだろうか」「RC に登録する前に確認したいことがある」「少し相談に乗ってほしい」など、多様な相談に応じる体制を作っています。ご関心のある方は、お問い合わせくださいませ。また、RCアドバイザーとしてご協力いただける方についても、引き続き募集しております。ご協力いただける方は、組織委員会までお申し出ください(ご推薦いただいても結構です)。国際社会学会や国際会議等でのご活動・ご活躍について、皆様からの情報提供もお願いたします。

4、世界社会学会議組織委員会では、横浜大会に向けて報告申込や報告にあたっての注意点などをまとめた、Q and A 形式の入門的なガイドを作成しました。このニュースの巻末に掲載します。国際社会学会や世界社会学会議全体に関する事柄について、疑問の点は、遠慮なく組織委員会宛におたずねください。できるだけガイドに反映させていきたいと思ひます。

5、日本社会学会では、「国際発信のための英語ワークショップ」を開催しております。本年度も、日本社会学会大会の折のほか、昨年引き続き関東社会学会大会の際の開催も計画

しています。詳細は、追って学会ニュース、学会ウェブサイト、組織委員会ウェブサイト (<http://www.wcs2014.net/>) でお知らせいたします。これまで、累計で 70 名以上の参加者があり、模擬報告へのアドバイスを含め、毎回好評をいただいております。奮ってご参加ください。他の学会や研究グループとの共催などのご希望にもできるだけ対応したいと思います。ご希望がありましたらご連絡ください。

ISA 世界社会学会議横浜大会に関する Q&A (その1) 世界社会学会議組織委員会

世界社会学会議組織委員会は今後も随時横浜大会に関する Q&A を発信します。今回は報告関係に絞りました。Q&A を拡充していきますので、ご質問・意見を組織委員会宛お寄せください。

(wcs2014loc@gmail.com)

[1] 個人研究発表について

Q 1 : ISA 世界社会学会議の横浜大会で、個人で研究発表をしたいのですが、発表申し込みまでの手順を教えてください。

A : 標準的な手順は、以下の通りです。

- 1) まず、1つか2つのリサーチ・コミッティ (RC) に所属してください。(現在 55 の RC と、RC の予備段階的な 3 つの Working Group、そして 5 つの Thematic Group があります。どのような RC があるかは、ISA のウェブサイトにもリストがあります (<http://www.isa-sociology.org/rc.htm>)。このサイトの右側には aging に始まる 56 個のキーワード・リストがありますので、関心のあるキーワードをクリックすると、特定の RC のサイトに移動することができます。そこから所属申し込みをすることができます。)
- 2) RC に所属するには、RC ごとに定められた 20~50 ドル程度の登録料が必要となります (4年間有効)。その登録にはクレジットカードが必要となりますが、オンラインで簡単に入会手続きが完了します。会員資格は 4年間有効となっております。
- 3) RC に所属すると、そこからいろいろな情報が入ります。2013 年 4 月下旬頃、各 RC が call for papers (報告募集) を出すので、該当する RC の応募方法、応募先に従って応募してください。
- 4) 多くの RC では締切を 2013 年 9 月 30 日にしていますが、締切も各 RC の指示に従ってください。
- 5) そして、2014 年 1 月末には、応募した RC より採否が通知されます。採用されれば、報告可能となります。ただし、繰り返しになりますが、各 RC によって、報告募集等の時期が異なる場合がありますので、早めに RC に所属して、情報をキャッチするようにしてください。

Q 2 : リサーチコミッティ (RC) には紹介者なしで入れるのですか。

A : 紹介者は不要です。

Q 3 : 発表を申し込んだら、必ず発表できるのですか。

A : 上記のように採否の決定がありますので、必ず発表できるとは限りません。

Q 4 : せっかくですので、違うテーマで 2 回発表をしたいのですが、可能ですか。

A : 横浜大会では、2 つの報告までは可能です。

Q 5 : 日本語で発表できるのですか。

A : ISA の公式言語は、英語、フランス語、スペイン語です。ですので、今後の国際学会でのことも考えて、ぜひ英語での報告をお勧めします。しかし今回、ISA は多言語化（日中韓など）を一定程度考慮しています。その場合でも、報告や質疑応答には通訳者が必要で、その準備は各自、自前でおこなってください。ただし、報告申込みや abstract や報告用の paper/PPT は英語などの公式言語でおこなってください。なお、重要なことですが、多言語化はそれぞれの RC の判断に任せられていますので、多言語化が認められていない RC もあります。ですので、申請者ご自身で確認が必要です。

Q 6 : せっかく横浜でやるので、思い切って自分でセッションを設けたいのですが、どうすればよいのでしょうか。

A : このセッションコーディネーターは、急いでください。

1) 2013 年 1 月下旬頃、各 RC が call for sessions (セッション企画募集) を出しますので、該当する RC の締切、応募方法、応募先に従って、session のテーマ、司会者等をあらかじめ明示して申し込んでください (なお、締切は RC ごとに異なりますのでご注意ください。 <http://www.isa-sociology.org/congress2014/rc/> で確認できます)。

2) なお、企画上の注意点については下記で確認できますので、ご参照ください。
<http://www.isa-sociology.org/congress2014/guidelines-program-coordinators-and-session-organizers.htm>

3) そして、2013 年 4 月中旬頃までには、応募した RC より採否が通知されます。なお、採用されれば、そのセッションへの公募がかかり、セッションコーディネーターであるあなたを中心にセレクションをおこなうケースが一般的です。なお、あなた自身が司会を担当する場合には、そのセッションでは報告はできません (司会者を別に立てれば、あなたも報告することができます)。この点も、要注意です。

Q 7 : グループでの発表は可能ですか。その場合、発表者全員が、会費、参加費を払わなければならないのでしょうか。

A : 原則的には、そうです。

Q 8 : 発表時間は何分ですか。

A : 基本の報告時間は 15~20 分です (セッションによって異なります)。通訳をつけても所定の時間内に終わらせなければなりません。

Q 9 : 必ずパワーポイントを使わなければならないのですか。

A : 今日では、PPT 使用が一般的です。ただし、報告内容 (論文) を配布して、それに沿って報告することもできます。

[2] その他の報告の可能性

Q 1 : ISA には、若手研究者むけの報告機会があり、そこでも発表できると聞きました。その場合の具体的な発表申し込み手順を教えてください。

A : 第 6 回若手社会学研究者世界コンペティションのことだと思います。ここで若手とは、最初に取得した修士号から 2013 年 5 月 1 日時点で 10 年未満の方を指しま

す。これは、2013年5月1日が応募締め切りです。日本語で応募もできます。詳しいことは、<http://www.isa-sociology.org/wcys/index.htm>を参照してください。

Q 2 : Ad Hoc Sessions や Integrative Sessions もあると聞きました。そこでの発表の申し込みもできるのですか。

A : アドホックセッションは、特定のリサーチコミッティを超えたやや大きなテーマで企画されたセッションのことです。またインテグレーティブセッションは、少なくとも3つのRC (working group や thematic group を含む) や、3つの国別学会、あるいは両者の組み合わせ (例えば、2つのRC と日本社会学会等) で企画されたセッションです (横浜大会全体でインテグレーティブセッションは10セッション設けられます)。ですが、これらのセッションは企画の段階で報告者がすでに決まっていますので、あとから発表を申し込むことはできません。

Q 3 : 日本社会学会が組織するセッションがあるとも聞きましたが、そこにも発表申し込みできるのですか。

A : 世界社会学会議組織委員会が5セッション企画しますが、報告者等企画の内容はこの組織委員会が決定します。組織委員会では、報告希望者やアイデアを募集しています。締切は1月31日 (木) です。最新学会ニュースの「世界社会学会議組織委員会からのお知らせ」の2. を参照のうえ、至急ご連絡ください (申込先 wcs2014loc@gmail.com)。

(世界社会学会議組織委員会)